月刊島民 中之島 28号 2010年11月1日発行 編集・発行人／江弘毅（140B） 編集・発行／月刊島民プレス 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 定価0円 Printed in Japan

おけいはんの新発見

おけいはんに、紅葉の力。

この秋、美しい想い出をつくりに、京阪電車で。

あちこち行きたい！

みりく 沿線の魅力、再発見！ DISCOVER KEIHAN

貴船川

哲学の道

東福寺

北野天満宮

清水寺

興聖寺（琴坂）

常寂光寺

三井寺

紅葉めぐりに「便利でお得なチケット」発売！

お問い合わせは、京阪電車お客さまセンター Tel.06-6945-4560
（9時～19時※土・日・祝日は17時まで）

京阪沿線の紅葉名所 三千院、実相院、もみじのトンネル（叡山電車）、貴船神社、鞍馬寺、北野天満宮、下鴨神社（糺の森）、法然院、永観堂、真如堂、南禅寺、青蓮院、高台寺、清水寺、東福寺、泉涌寺、毘沙門堂、醍醐寺、三室戸寺、宇治橋上流、善法律寺、男山、常寂光寺、渡月橋付近、比叡山延暦寺、日吉大社、三井寺、石山寺

京阪のる人、おけいはん。

紅葉情報は おけいはん 検索

www.okeihan.net

月刊島民

橋を渡る人の「街事情」マガジン

中之島

Vol.28 2010 11/1

◉iPadサイズ（と、ほぼ同じ）

中之島は宝島だ！

ナカノシマ大学

「ウイスキーがお好きでしょ？」

byサントリー山崎蒸溜所

申し込み受付中！

誌上公開

御社のお宝、見せてください！

中之島の「宝」とは、企業の歴史を伝える産業遺産であり、中之島で生活する我々にとっての誇りでもある。バラエティに富んだそうそうたるラインアップは、多くの会社が集まるこの街そのものではないか。

取材文／大迫力　松本創　若狭健作（以上本誌）

「わが社のお宝」から中之島が誇る国宝へ。

二つの「国の宝」が中之島にある。一つは茶碗（右）。南宋時代（12～13世紀）に作られ、油の滴のように、光によって輝きが変化する文様が表面を覆う。聚楽第で豊臣秀次が使い、西本願寺、京都三井家、若狭酒井家と受け継がれてきた逸品。一つとして同じものはない斑文、それらの配置は偶然なのか意図したものなのか…美の解釈は時代を超えて尽きない。

地震や火災で損失しないよう国宝や重要文化財に指定された半数ずつを交互に公開、展示には免震台を使うなど細心の注意が払われている。

東洋陶磁美術館
「飛青磁花生（とびせいじはないけ）」
「油滴天目茶碗（ゆてきてんもくちゃわん）」

もう一つは花生、茶席などで花を生ける瓶として使われたのだろう。元時代（13～14世紀）の作品で、日本に渡り鴻池家に伝来したお宝だ。黄みを帯びた青磁釉（せいじゆう）の表面に、空に浮かぶ雲を思わせる鉄斑（てつはん）が飛び交う。注目すべきはその均整美。「どれだけ言葉を重ねるよりも、実物を見れば一目で分かっていただけるはず」と主任学芸員の野村恵子さんに言わしめるプロポーションは必見だ。

いずれもかつて今橋にあった商社・安宅産業のコレクションで、経営破綻により大阪市へと寄贈された。花生ももとは鴻池家にあったとなると、まさに〝社のお宝〟が〝シマのお宝〟として大切に受け継がれているわけである。

大阪市立東洋陶磁美術館
中国・韓国陶磁を中心に約4,000点の収蔵品を誇る。ゆっくり巡れば陶磁史の流れが自然と分かる。11月7日（日）までは国宝2点が同時展示。評価額は2点でアニキ金本の年棒以上！　入館料500円。☎06-6223-0055　9:30AM～5:00PM（入館は30分前まで）　月曜休（祝日の場合開館）

リーガロイヤルホテル タペストリー 南蛮船

海を渡る船に、大阪発展の夢をのせて。

小磯良平、藤田嗣治、平山郁夫ら、名だたる巨匠の絵画を所有することで知られるリーガロイヤルホテルの館内では、まるで美術館で過ごすように壁に掛けられた絵画を楽しむ人の姿をよく見かける。

タワーウイング3階の宴会ロビーにあるタペストリーは、前身である新大阪ホテルの開業に合わせ、京都の老舗織物メーカー・川島織物に特注したもの。「ホテルの大きな壁面に何を飾るのが一番良いかを考え、絵画より迫力のある織りものが選ばれたのでは」と、同社の織物文化館の森克巳館長は推測する。1年かけて製作された縦2.5m、横2mを超えるタペストリーに描かれているのは、江戸時代にオランダから貿易のためにやってきた「南蛮船」（写真）と徳川幕府の朱印状を持って渡航した「末吉船」。海を超えて行き来する船を題材に採ったのは「国際都市大阪の発展を願うため」と説明書きにある。大大阪時代、大阪の街や人の期待を背負って誕生した歴史も一緒に織り込まれているのだ。

リーガロイヤルホテル
メインバー［リーチバー］には河井寛次郎作の「大皿」が飾られるなど、美術的な観点からも楽しめる要素に溢れている。「南蛮船」は宴会場を利用する際にご覧いただきたい。1階には入場無料のリーガロイヤルギャラリーもある。☎06-6448-1121（代表）

サントリー ザ・マッカラン 55年

酒のプロたちも夢見る究極のシングルモルト。

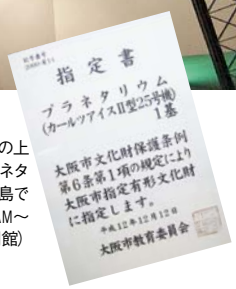
堂島浜の島民企業サントリーがこの秋、本社1階にオープンした、試飲もできるウイスキーショップ［W.］。100銘柄を超すボトルが居並ぶ棚でひときわ威厳と品格漂うのが「ザ・マッカラン55年」だ。「シングルモルトのロールスロイス」と称されるスコッチの名門マッカランが、日本限定で100本だけつくった入魂の品は1本105万円（税別）也。うやうやしく木箱に収められたクリスタルボトルの中身は、ショップを預かる店長もバーテンダーも、「とてもじゃないけど飲めません。でも…」と、思わず横目で秋波を送る憧れの的。これだけは「試飲不可」だから、超オールドモルトの熟成感と深い味わいは想像するしかない。

ちなみに、試飲できる中で最高級品の一つは「響30年」。海外のブレンダーも絶賛するジャパニーズブレンデッドの至宝。1本10万円で、試飲は15mℓで2500円。「旨い酒を飲むと自然と涙が出る」という『BAR レモンハート』（酒ウンチク漫画）のマスターなら、感涙にむせぶであろう。

ウイスキーショップ［W.］
サントリーが扱う国産・輸入ウイスキーの豊富なラインアップをゆっくり吟味できるようカウンターを設け、指南役のバーテンダーが常駐。試飲は200円～。山崎、白州の両蒸溜所のシングルカスク（樽）は、ここでしか飲めないお宝（試飲400円）。☎06-6341-3123
11:00AM～7:00PM　土・日・祝休

12月のナカノシマ大学はサントリー山崎蒸溜所による、ウイスキーの歴史と味わい方講座。詳しくはP10へ！

大阪市立科学館 カールツァイスⅡ型25号機



大阪市立科学館プラネタリウム
全天周ドームでは星空投影のほか、学習映画やアニメの上映も。現在は惑星探査機「はやぶさ」人気に沸く。プラネタリウムは大人600円。展示されている初代機は、中之島で唯一の市指定文化財。☎06-6444-5656　9:30AM～5:00PM（入館は30分前まで）　月曜休（祝日の場合開館）

星を映して半世紀、これぞ名機の存在感。

全国屈指の性能を誇る市立科学館のプラネタリウムだが、先代の存在感はさらにすごかった。四ツ橋にあった前身の「電気科学館」が1937年（昭和12）に導入した「カール・ツァイスⅡ型25号機」は、何しろアジア初のプラネタリウム。光学式プラネタリウムを発明したツァイス社が技術の粋を集めた名機で、その名の通り世界で25番目に作られた。大阪でも北極でも赤道でも、あらゆる地点・季節の星空を投影できるようになった画期的な機械は人々に天文の世界を開き、平成元年に引退するまでの52年間に延べ2000万人が訪れた。「現在、全国最古の機械でも50年。これほど長く使われた物はありません」と同館の学芸員。引退後はドーム入口で来館者を迎えているが、「性能的にはいまでも十分通用する」のだそう。働きアリのようなその姿が、星空に未練を残すように見えるのは、そのせいか。

京阪電車 延伸記念モニュメント

「西へ東へ延伸を」の熱気伝える語り部。

今年開業100周年を迎えた京阪電車の歴史の中で、1963年（昭和38）の淀屋橋延伸がいかに画期的な大事業であったかは、本誌26号でコッテリ紹介した。創業以来の悲願達成に、社を挙げてさまざまな記念事業が行われたが、その一つが、いまも淀屋橋の地下通路にひっそりと置かれたモニュメント。

京都市立美術大学（現・京都市立芸術大学）の教授だった国際的な彫刻家・辻晋堂氏の作品で、題名は寒山の詩より『来去任西東』。西へ東へ自由に社業を進展させようと願いを込めた重厚なブロンズ彫刻は、中央の車輪を大勢で押し進める姿を模した抽象作品。「全員一丸で」「西へ東へ」という当時の京阪の勢いを伝える語り部だ。中之島から大阪市内を貫き、京都へ滋賀へ。鉄路の次の100年を見守る、「トレイン・キープス・ローリン」な精神を体現したお宝なのである。

京阪電車
1910年（明治43）4月、天満橋～五条間で開通。創業53年を経て、念願の大阪市中心部への乗り入れである淀屋橋への延伸を実現。このほか、当時の社長が筆を執った御影石の扁額「先覚志茲成」（せんかくのこころざしここになる）は天満橋駅4番ホームに掲示されている。

関西電力
くろよん記念碑

世紀の大工事現場へいざなう巨大壁画。

関西電力本店ビルの3階。あまり人の通らない廊下に巨大な立体壁画が現れる。キャタピラや大型ダンプの轍（わだち）、安全靴の足跡、ボルトやチェーンの型…。工事現場の熱気と喧騒を封じ込めたレリーフは、黒部ダムと黒部川第四発電所、通称「くろよん」の建設時に採取された地面の跡。北アルプスの秘境に延べ1千万人を投入、7年の歳月を費やした巨大ダムは、20世紀の土木建設史に刻まれる伝説の難工事。殉職者も171人に上った。その偉業を語り継ぐべく、1961年（昭和36）、旧関電ビル前に設置されたのが、この記念碑（左が当時の写真）。幅6m×高さ2m、重量9tにも及ぶコンクリート製の本物は5年前に現地へ里帰りし、現ビルにはレプリカが残された。「全社一丸で成し遂げた大事業」の証人は、中之島のビル街に男たちの汗と土ぼこりの匂いを運んでくるようだ。

くろよん
日本一の高さ186mを誇るダムと、最大出力33万5000kwの水力発電所の通称。難工事に挑んだ男たちのドラマは、石原裕次郎主演の映画『黒部の太陽』やNHK『プロジェクトX』など、多くの作品になった。現在も関電本店ビルで紹介ビデオが常時上映されるほど、同社にとって象徴的な事業。

朝日新聞社
R・ホー社製手刷り機

日本の印刷文化史を伝える伝説の名機。

年季の入った印刷機が朝日新聞大阪本社1階「アサコムホール」に飾られ、社内見学に訪れる人々に新聞社のルーツを伝えている。1879年（明治12）に創刊号を刷ったこの初号機は、ニューヨークのR・ホー社製の舶来物。その独特の形から「お多福」や「だるま」という愛称で親しまれ、創業の地・江戸堀の6畳2間の屋敷で10人ほどの印刷課員とともに働いた。1時間に300枚の速度で手刷りされ、当時稼働していたのはこの機械を合わせて2台くらいと言われている。

朝日新聞はその後、発行部数を伸ばし1883年（明治16）には全国第1位の発行部数に。2年後には、旧宇和島藩の蔵屋敷を買収し、現在の中之島3丁目に本社を構えた。部数拡大にあわせて印刷機は次々と更新されてきたが、この「お多福」だけは6畳2間の思い出とともに保存されていたのだった。

アサコムホール
大阪本社の見学は平日12:00PM～と1:30PM～の2回（※2人以上で2日前までに要予約）。ギャラリーや過去6年分の朝日新聞（大阪市内版）閲覧コーナー、印刷機「お多福」は自由に見学可能。☎06-6201-8033
10:00AM～6:00PM　土・日・祝休

蔵出し 島民の宝

他の人にとっては、宝とは呼べないかもしれない。けれど、自分にとってはかけがえのない宝もの。そんなものは誰しも持っているだろう。街の話がたっぷりと詰まった、「島民ぬ宝」を蔵出ししてもらった。

取材・文／金 哲志　服部和香　松本 創　若狭健作

[そば切り てる坊]の先祖由来の漆器

店主・山西さんの高祖父・曽祖父は、明治44年ごろまで北浜で料理旅館を営んでいた。当時、土佐堀川沿いには料亭や料理旅館が軒を連ね、客は小舟に乗ってきて川側から入店したという。そんな風情ある時代の名残を残す漆器が、現在も店に残っている。桐共箱で丁重に保管された計20客の吸物膳は、すべて絵柄が違う。約25cm四方の漆黒のお膳に、花鳥風月を見事にあらわした豪華絢爛な蒔絵は見るもまばゆく光る。京都の漆器専門店で見てもらうと「今同じものを作ることができる職人はいない」そうだ。工芸品としても貴重だが、店に川床を設置している山西さんにとっては「明治時代の北浜文化の吐息を継いでいかなければ」という使命感をもたらしてくれた、リレーのバトンでもある。

器の一部は、今も使っています

山西輝和さん

当時使用されていた吸物膳とお椀。普段は大切にしまってあるそう。客の一人であった阪急創業者・小林一三氏にも出されたかもしれないという。

そば切り てる坊

ビル名「忠治郎」は、高祖父の名にちなむ。店主は北浜水辺協議会の理事長でもある。☎06-6231-8885　11:15AM ～ 2:00PM　6:00PM ～ 9:00PM（水・土曜の夜は予約のみ）　日・祝休

[吉田理容所]の人間国宝の写真

店の道具棚の上に並ぶ本の間に、無雑作に置かれた分厚い書類用のファイルがある。その中には金吾さんの父である先代が、引退前の思い出にと、六代目尾上菊五郎や十三代目片岡仁左衛門（右の写真）らと撮影した写真が収められている。「生前の父に撮ってくれと言われたものです。人間国宝だからというわけではないようで、それ以外のお客さんとも撮りましたよ。父なりの基準で、思い出に残っていた人たちと写りたかったんでしょうね」と金吾さん。他にも旅行に出かけた時の切符、他の店が配っていたチラシなど、昔を思い起こさせるものも多い。かつての街の様子を知ることができる、私たちにとっても貴重な「アルバム」である。

記録ではなく、記念のため

吉田金吾さん

吉田理容所

1930年（昭和5）創業。歌舞伎、文楽をはじめ各界の著名人も信頼を置く老舗理容店。店に入ると真っ先に目に飛び込んでくる「毎日が開業日」の書に、仕事への情熱が感じられる。☎06 - 6231 - 2544　8:30AM ～ 6:00PM　日・祝休

この時計はうちの店の「顔」です

石原 実さん

[石原時計店]の英国製柱時計

♪大きなのっぽの古時計…は100年動いた時計の歌だが、淀屋橋南詰の［石原時計店］にある英国製柱時計は、それを軽く超える。現在５代目の石原実社長によると、「南久宝寺町に店があった２代目の時に買ったもの。ちょうど太陽暦が採用された頃でしょうな」というから、1872年（明治５）以来138年、４代にわたって受け継がれてきた家宝だ。背の高さ２m。動力は、巻き上げた分銅が落ちる重力で、振り子は水銀製。時・分・秒の針は別々に回っている。「いちばん時間が狂いにくい構造なんですわ。時報なんかない当時、うちの店の時計は全部これで合わせてたからね」。一時は倉庫で眠っていたが、今はピカピカに磨き上げられ、82歳の社長とともに現役である。

石原時計店
創業は1846年（弘化３）。移転と戦時の休業を挟み、1963年から現在地で営業している。かつて店に出していたお宝の柱時計は、現在は社長室に掛かっているため、残念ながら見学は不可。
☎06-6231-1726　11:00AM～8:00PM　日曜休

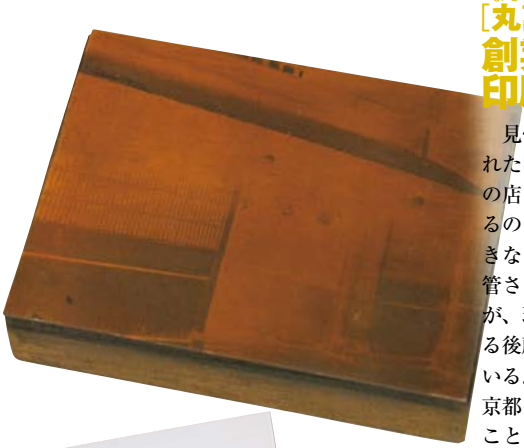
いつもパワーをいただいてるよ

堀江敏樹さん

[ティーハウス ムジカ]のマザー・テレサにもらったメダイ

交流や商談でたびたびインドを訪れる、紅茶専門店オーナーの堀江さん。1993年、帰国途中の飛行機で後席になんとマザー・テレサが座っていた。思い切って声をかけ、もらったサインは貴重な思い出になった。しかし、ご縁はさらに続く。帰国後、あらためて本を読み感銘を受け、翌年にはカルカッタの活動拠点「マザーハウス」を訪問した。飛行機で出会ったことを覚えていた彼女に、自ら製作に携わったＣＤ『ロ短調ミサ』を手渡した。「お返しに」と受け取ったこの「メダイ」（カトリックの信仰を表すメダル）は、ムジカの店内に大切に飾られている。「うち店のお宝？　それはもちろんお客さん。でもこのメダイにはずいぶん勇気をいただいていますよ」。

ティーハウス ムジカ
1952年音楽喫茶として創業し、その後、紅茶専門店として再出発。２代目となる堀江敏樹さんは日本に紅茶文化を普及させ、愛好家たちをうならせてきたスペシャリスト。本誌連載でもおなじみ、久坂部羊さんの思い出の店でもある。　☎06-6345-5414　11:00AM～10:00PM　日・祝休



創業当時の趣に見合う味を

後藤英之さん

[丸萬（まるまん）本家]の創業時を伝える印刷用原板

見慣れない道具の正体は、銅で作られた印刷用の原板。元治元年創業当時の店の外観写真がエッチングされているのだが、古い機械でなければ印刷できないため、使い道のないまま代々保管されてきた。それに興味を持ったのが、現店主の長男であり彫刻家でもある後藤英之さん。「どんな風に描かれているんだろう」。方々を探し回った末に、京都で見つけた会社の機械で印刷することに成功。印刷された写真を見て、芸術家ならではのこだわりがくすぐられた。寸法や色まで割り出し、創業時のたたずまいを再現した。「初代の趣にふさわしい伝統の味をよみがえらせたい」と英之さん。温故知新の思いを心に灯す宝ものとなった。

丸萬本家
魚すきの老舗。ミナミの戎橋近くで創業し、鰻谷に店を移した後、昔の大阪の趣を求めて、瓦町へ。魚すき3,150円～、お昼にいただける魚めしは750円。　☎06-6201-4950　11:30AM～2:00PM　5:30PM～9:00PM　日・祝休

「中之島は宝島」を証明する？ 本の話

取材・文／松本 創

今回調べてみて分かったのだが、中之島には、国や府・市のお墨付きのお宝（国宝や重要文化財）は、それほど多くない。にも関わらず、「中之島＝宝島」のイメージを伝える本は数多い。江戸時代に蔵屋敷が建ち並ぶ流通の拠点となり、近代以降は大阪を代表する企業が集まった「富と文化と旦那イズムのシマ」という土地の歴史を映しているのかもしれない。

たとえば、**松本清張**『**空の城**』。かつて今橋に本社を置いた安宅産業をモデルに、大商社破綻の内情を描いた経済小説の傑作だ。石油事業進出の失敗が直接の原因だが、背景には美術品蒐集に精出す会長の芸術家肌と公私混同があった、という。そう、東洋陶磁美術館が所蔵する安宅コレクション（P2）の主の話である。

以前にも本誌で紹介した**高村薫**のデビュー作『**黄金を抱いて翔べ**』は、土佐堀川に面した大銀行（モデルは三井住友銀行）の地下金庫から6トンの金塊を奪おうと画策する、いわば現代の怪盗もの。**福田紀一**『**霧に沈む戦艦未来の城**』は、中之島が戦艦となって東京へ向かうという脱力ユーモア系SFだが、出撃前に、法隆寺の国宝から太陽の塔まで関西のあらゆる文化遺産が中之島に積み込まれる。

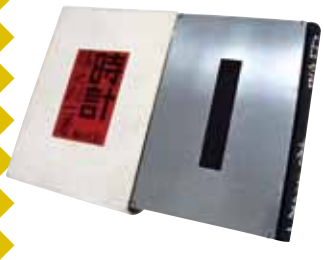
直接中之島は出てこないが、**手塚治虫**『**新宝島**』にも触れておきたい。1947年（昭和22）、中之島にあった大阪大学医学専門部の学生だった手塚の名を一躍全国に知らしめた作品。少年が孤島に漂着し、海賊と戦いながら宝探しをする冒険譚だ。藤子不二雄から浦沢直樹まで、この作品に衝撃を受けたマンガ家は数多く、戦後ストーリーマンガはここから始まったといわれる。昨年に完全復刻版が出版され、内田樹氏の近著『街場のマンガ論』では表紙に使われている。宝の島で学んだ日本マンガ界の至宝が、次世代の宝たちを育んだ重要作である。

『空の城』松本清張（文春文庫）
『黄金を抱いて翔べ』高村薫（新潮文庫）
『霧に沈む戦艦未来の城』福田紀一（河出書房新社、絶版）
『完全復刻版 新宝島』作画・手塚治虫、原作・構成・酒井七馬（小学館）

21世紀の木村蒹葭堂!? 橋爪節也コレクション

博覧強記で珍品奇品のコレクターとして全国に名を馳せた、江戸時代の大阪が誇る町人学者・木村蒹葭堂。その生まれ変わり、とは言い過ぎだが、大阪きっての珍しもの好きコレクターと言えば、大阪大学教授の橋爪節也さん。数あるコレクションの中から中之島に縁深いものを御開帳！

取材・文／大迫 力（本誌）



横光利一『時計』

昭和9年に大阪の創元社から出た、金属板を縫い付けるという驚きの装丁の小説。内容は大阪とは関係ないのだが、その3年前に建てられた朝日ビルが、建物の外側に金属パネルを貼り付けた斬新なデザインで、それを見て発想したらしい。同じ頃に谷崎潤一郎の『春琴抄』も出版されたが、そちらは漆塗り。本作りへの意気込みが伝わる。

「お蝶夫人」のパンフレットと半券

中央公会堂、朝日会館、そして現在改修中のフェスティバルホール。中之島にはコンサートホールの系譜がある。このパンフレットと半券は、日本人で初めて国際的に有名になったソプラノ歌手・三浦環が、十八番の「お蝶夫人」を中央公会堂で公演した時のもの。半券と一緒に手に入ったということは、持ち主は大事に取っていたんでしょう。

新大阪ホテルのパンフレット

昭和10年に誕生した新大阪ホテルは、現在のリーガロイヤルの前身。イラストにも描かれているようにベネチアンゴシックスタイルの非常に豪華なホテルだった。クリスマスの催し物の案内を見ても実に洒落ている。開くと、ロビーにエッフェル塔の形をした1丈8尺（約5m）のクリスマスケーキが飾られたらしい。華やかで贅沢な時代やなあ。

『大阪叢書』

大正末期から昭和初期、大大阪と呼ばれたこの時代には、郷土研究本がたくさん出る。昭和3年に刊行されたこの本もその一つ。非常に趣味性の高い本で、面白いイラストが載っている。なんと難波橋のすぐ下で、棒高跳びをやっている。何かの競技会をしたのだろうか。中之島公園に近代的な設備が整えられていったことの証しとも言える。

(財)大阪21世紀協会
事業活動に関するお知らせ

21世紀の
懐徳堂
プロジェクト

インテリジェントアレー専門セミナー

都市文化論

受講者
募集中

～文化によるまちおこし活動の理論と実践～

景気が長期にわたり停滞する中、地域の自立が求められ、全国的に地域ブランディングの動きが起こっています。地域にある自然、歴史・文化遺産、伝統行事、食文化など、地域固有の資源を活かした活動から、市民やクリエイターによる新たなまちおこしの動きなどが、様々な人に支えられて展開されています。今回の講義では、主に大阪、関西で、文化によるまちおこし、あるいは、都市の活性化につながる文化創造はどのように展開するべきか、政策的視点から各当事者の役割や連携を含め、成功へ導く秘訣を、幅広い事例を交えながら検討していきます。

文化によるまちおこしに興味をお持ちの方はぜひご参加下さい。

開催日時／平成23年1月～3月　隔週木曜日夜　19:00～21:00　全6回
会場／キャンパスポート大阪　大阪市北区梅田1-2-2 400号　大阪駅前第2ビル4階（TEL.06-6210-3620）
参加料／6講座通し：18,000円（1講座ごとの受講：4,000円／講座）
主催／財団法人大阪21世紀協会、特定非営利活動法人関西社会人大学院連合
※申し込み方法の詳細等は 特定非営利活動法人 関西社会人大学院連合のホームページをご覧ください。
http://www.kansai-auae.jp

第1回 1月13日（木）「欧米諸国の文化政策から学べること」
河島伸子（同志社大学経済学部教授）
欧米各国の文化政策の、多様な背景、考え方、方法論についての概要を理解し、そこから我が国の文化政策発展に向けた示唆を得ていきます。

第2回 1月27日（木）「文化が地域を創る―サントリー地域文化賞受賞者の活動事例から」
小島多恵子（サントリー文化財団主任研究員）
文化とは、「一文の得にもならん阿保らしいことを一生懸命やること」だと、サントリー地域文化賞の産みの親、故梅棹忠夫氏は語りました。その文化が、地域社会に活力と郷土愛を育み、地域づくりの核となっています。全国の地域文化賞受賞者の活動事例から、成功の秘訣を探ります。

第3回 2月10日（木）「都市文化政策と地域ブランディング―当事者の役割」
初谷 勇（大阪商業大学総合経営学部、同大学院地域政策研究科教授）
地域ブランディングの対象は様々な地域資源に及びますが、地域で創造された革新的な政策も地域ブランドとなり得るものです。都市文化政策と地域ブランドの関係を、当事者の役割に着目して考えてみます。

第4回 2月24日（木）「市民による公共空間のマネジメントについて」
山崎 亮（(株)studio-L 代表取締役）
道路や河川や公園など、まちの公共空間が「誰のものでもない空間」になって久しい。しかし、かつての大阪では河川や橋梁や道路をまちに住む人たちが整備したり管理したりしていました。現代のまちでは、市民が公共空間をマネジメントするのは難しいのでしょうか。市民による公共空間のマネジメント手法とその効果について考えます。

第5回 3月10日（木）「『経済』と『文化』の戦略的協働による地域活性化」
藤原 明（りそな総合研究所新規事業戦略部プロジェクト・フェロー）
「経済」と密接な関わりを持つ銀行グループがプロデュースする「経済」と「文化」の戦略的協働の豊富なケーススタディを題材に、地域活性化の企画具現化手法をご紹介します。

第6回 3月24日（木）「大阪の町人文化に学ぶ：懐徳堂や心学の精神とまちおこし」
堀井良殷（大阪21世紀協会理事長）
大阪には民の力でまちをつくってきた伝統があります。18世紀に大阪で始まった精神作興運動は、はからずも日本的資本主義の源流となりました。その基本は社会貢献を行動によって実現することにあります。その水脈を汲み上げ未来にどう生かすのかが、いま問われています。

●「インテリジェントアレー専門セミナー」プログラムへの参画について

（財）大阪21世紀協会では活動の一つとして、大学等の研究機関と連携し、そこで産み出された知的成果を社会で活用する「社学連携事業」に取り組んでいます。平成２１年に特定非営利活動法人　関西社会人大学院連合と連携協定を締結し、以降、同連合主催のプログラムに参画しています。

問い合わせ：（財）大阪21世紀協会 事務局　森　TEL.06-6942-2004　FAX.06-6942-5945

ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の懐徳堂プロジェクト

2010年
12月講座

「ウイスキーがお好きでしょ?」
講師／サントリー山崎蒸溜所

ハイボールブームで人気再燃の今だからこそ知りたい、ウイスキーの味わいと文化、そして大阪との関係。

ジャパニーズウイスキーのスタンダード「角瓶」ハイボールの大ヒットで、ウイスキー人気が復活しつつある。長く冬の時代を送ってきたウイスキーが再び脚光を浴び始めた今だからこそ、あらためてウイスキーの奥深い歴史と文化的背景、豊かな味わいと楽しみ方、そして、つくり手の想いを学びたい。そんな思いで今回のナカノシマ大学は、「日本のウイスキーの故郷」サントリー山崎蒸溜所及びウイスキーショップ［W.］（P3）とのコラボレーションによるセミナーを開催。

山崎蒸溜所で日常的に行われているセミナーをベースにしながら、中之島を代表する企業であるサントリーの歴史や哲学を知ることで、大阪の街との関わりも学ぶことができる。もちろん、目玉になるのはウイスキーのテイスティング体験。日々ウイスキーづくりに心血を注ぐプロによる味わい方・楽しみ方のアドバイスは、ビギナーにもオールドファンにも役立つとともに、師走らしい「シマの忘年会」ムードを演出してくれるはずだ。

テイスティングできる！

上と下右端の写真は、サントリーが今年9月、堂島浜にオープンしたウイスキーの宝庫［W.］の店内。下左3枚は、日本ウイスキーの故郷・山崎蒸溜所の風景。プロの指南でウイスキーを存分に味わいたい。

募集要項

「ウイスキーがお好きでしょ?」

講師／サントリー山崎蒸溜所
日時／12月7日（火）　7:00PM ～（開場6:30PM）
会場／中央電気倶楽部 大食堂　定員／100名
受講料／1,800円（テイスティング&ソフトドリンク1杯付き）
主催／ナカノシマ大学事務局　サントリー山崎蒸溜所
　　ウイスキーショップ［W.］
協賛／関西電力　協力／大阪21世紀協会

お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
「ナカノシマ大学12月講座」受付係　FAX.06-4799-1341

※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。
※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は
http://www.nakanoshima-univ.com

ケータイからはこちら！→

お問い合わせ☎06-4799-1340
（ナカノシマ大学事務局）

笑福亭喬介さんは「時うどん」を披露。つい「お腹が鳴った」という受講生も。

9月16日(木)

文化講演会「落語 にし・ひがし」

@大阪倶楽部

講演／恩田雅和(天満天神繁昌亭支配人)

落語／笑福亭三喬　笑福亭喬介

埋め尽くされた客席は、まさに満員御礼の様相。今回のナカノシマ大学は、天満天神繁昌亭支配人の恩田雅和さんによる講演と、落語家の笑福亭三喬さん、その弟子の笑福亭喬介さんによる落語２席という豪華な２部構成で行われた。会場は関西では最も歴史の古い紳士社交クラブである大阪倶楽部。渋い近代建築に、笑い声が渦巻いた。

まず恩田さんのお話は、かの文豪、夏目漱石が中之島を訪れたことがある、という話から始まった。漱石の『行人』という小説の中には、ある病院が出てくるのだが、それは漱石が大阪滞在時に実際に入院していた病院がモデルであり、当時は大阪倶楽部からほどない場所にあったそうだ。また、落語好きだった漱石の小説には、落語にまつわるエピソードや登場人物を連想させる場面がたびたび登場する。恩田さん曰く「本人がそれを意識していたかどうかは分からない」のだが、落語を知っていると、漱石の小説を読み解く幅が広がることは間違いないだろう。

講演も終盤になってくると、今回の主題である落語の「にし・ひがし」の話題へ。天満天神繁昌亭では、上方落語協会の桂三枝会長の発案で、終演後に出演者の「お見送り」があること、繁昌亭では禁止されているが、江戸落語では飲食が可能といった東西間の違いが紹介された。

また、三代目柳家小さんが上方落語から持ち帰った「時うどん」が江戸落語で「時そば」に変化し、さらにそれを桂吉朝が持ち帰って、上方落語で新しい型の「時うどん」が生まれたことなど、落語好きも唸る豆知識も披露。最後に「この後、私の今日の話にゆかりのものをやるかもしれません、しないかもしれません」と、なんとも含みのある言葉を残し、恩田先生の講演は終了した。

満を持して、笑福亭三喬さん、笑福亭喬介さんの落語が始まる。まずは喬介さん。恩田さんの講演に合わせてか、ネタは「時うどん」。扇子一本で表現される、臨場感あふれるうどんをすする所作に、思わずつばが出るほどの名演である。

トリは笑福亭三喬さんによる「まんじゅうこわい」。江戸落語版と比べ、上方落語版の「まんじゅうこわい」は登場人物各々の好き嫌いの話や、怪談噺を経て、ようやく饅頭が嫌いな男が登場する大ネタ。こちらも三喬さんの軽妙な語りのもと、会場一同大喝采で閉幕。タイトル通り、東西の落語の違いを体験できる講座となった。

恩田雅和さんは、丁寧な作品の分析から夏目漱石と落語の関係を解説してくれた。

21世紀の懐徳堂プロジェクト
11月の時間割

ナカノシマ大学ほか、
中之島周辺の「学びの場」の時間割をご紹介。

大阪カルチャークラスター!!

大阪カルチャークラスター!!（OCC!!）では、大阪にあるカフェやギャラリーなどで独自に企画・運営を行っている講座・ワークショップを一堂に集め、紹介していきます。

6	土	1:00PM～	**「トラベルカルチャーマガジン『TRANSIT』トークショー」谷口京（写真家）×加藤直徳（『TRANSIT』編集長）** 参加費:500円　テーマは「伝統と革新～FILMとDIGITAL ロンドン、男二人旅、麦酒とともに」。	会場I
13	土	1:00PM～4:00PM	**「小鳥の刺繍ブローチをつくりましょう」annas／かわばたあんな（刺繍作家）** 参加費:4,200円（材料費込） 定員:5名　ステッチidees掲載刺繍作家 annasさんと一緒に刺繍ブローチを作ります。初心者OK。持ち物:ボールペン	会場F
		2:00PM～4:00PM	**「健康講座～自分のカラダを自分で治す」合田光男（国際東洋医療専任講師）** 受講料:2,000円 身体の不調を手技、つぼ療法、金粒療法、東洋医学経筋治療により自分の手で整える方法を学ぶ。テーマは「ぽかぽか」。	会場E
		5:00PM～7:00PM 終了後、交流会あり	**「奥村昭夫デザインワークショップ」奥村昭夫（グラフィックデザイナー）** 受講料:3,800円 グリコのロゴや牛乳石鹸のパッケージなどで有名なグラフィックデザイナー、奥村昭夫氏によるデザインワークショップ。	会場C
14·28	日	14日11:00AM～2:00PM 28日4:00PM～7:00PM	**「秋から冬の食卓」中東ゆうこ（ポーポー屋店主）** 参加費:各回3,800円 根菜やキノコ、カキやほうれん草などの食材が出揃います。身体を温める料理、お伝えします。	会場H
16	火	7:30PM～9:00PM	**「石原正一のヨミすぎ!～古今東西名作朗読会～」石原正一（役者・作演出家）** 受講料:1,500円 古今東西の名作を参加者全員で読みまくる夜です。この日は「竜馬」を読みます。	会場A
17	水	2:30PM～4:00PM	**「珈琲の楽しみ方をプロに学ぶ『百合珈琲教室』」百合千佳（百合珈琲店主）** 参加費:2,000円 プロの試飲方法、カッピングを学ぶ。カップオブエクセレンス賞受賞豆の試飲、フレーバーの表現方法なども紹介。	会場H
21	日	10:15AM～1:15PM 2:00PM～5:00PM	**「トリ・スクール『民藝運動』」岡山 拓（美術家）** 受講料:2,500円（1ドリンク付） 展覧会図録を参照しながら、初めての人でも解るように美術史や各種ムーブメントについてお話をします。	会場G
		2:00PM～4:00PM	**「メアリーちゃんの手さげポーチ」JuJu／塩谷純子（布かばん・小物・雑貨作家）** 参加費:2,625円　定員:6名 フェルトのアップリケを自由に選んで、頭巾をかぶったメアリーちゃんのポーチを手縫いで制作します。定員:6名	会場F
27	土	11:00AM～00:30PM	**「マクロビオティックサロン」豊村恵子（料理研究家）** 受講料:2,000円(料理費込)　定員:10名 「ネリkitchen」の豊村さんが、「雑穀ハンバーグ」のつくり方をご紹介します。	会場D
		1:30PM～6:00PM	**「小さなサンタクロースのオーナメント（ぬいぐるみ）作り」IRIIRI（人形作家）** 参加費:3,675円　定員:6名 サンタクロースのぬいぐるみを作りましょう。初心者の方も大歓迎!持ち物／糸切り鋏	会場F
		7:00PM～9:00PM	**「クリエイティブギャザリング『シャベル』」** 参加費:600円 おすすめのモノや場所、温めているアイデアなど、クリエイティブに関するトピックを紹介し合うギャザリングです。	会場J
		3:00PM～5:00PM	**「絵本講座『絵本を読む・聞く・選ぶ』」杉かおり（トリコロールブックス代表）** 参加費:3,500円（食事、絵本、テキスト付）子どもの頃に出会った懐かしい絵本を読み聞かせしてみませんか?	会場H
28	日	2:00PM～4:00PM	**「紅茶のワークショップ＜11月のテーマ・ジャムティー＞」Yuriko（ティーコーディネーター）** 参加費:2,000円 日常の紅茶を実際に一緒に紅茶を淹れながら、美味しく楽しむコツをお話します。	会場B

A common cafe
☎06-6371-1800
B 雑貨屋Biscuit cafe
http://biscuit-cafe.com/
C ○○○（オーー）
☎06-6362-5150

D 中崎町サロン文化大学
http://nakazakicho-u.blogspot.com/
E フレイムハウス
☎06-6226-0107
F タピエスタイル
☎06-4963-7450

G 欧風食堂 ミリバール
☎06-6531-7811
H 鳥かごキッチン
☎06-6535-0255
I スタンダードブックストア
☎06-6484-2239

J hitoto
http://hitoto.info/

大阪大学21世紀懐徳堂

●Handai-Asahi中之島塾 大阪大学が朝日カルチャーセンターと共催しているセミナーです。

12	金	1:30PM～3:00PM	**「おもしろ日本語学～方言あれこれ」小矢野哲夫（大学院言語文化研究科教授）** 受講料:1,575円 本場の方言とは違うにも関わらず、ドラマなどで取り入れられるのはなぜか。さらに、変化するネオ方言について考える。
20·27	土	10:30AM～12:00PM	**「伝統医学をたどる～朝鮮時代と江戸時代」内野花（大阪大学CSCD特任講師）** 受講料:3,150円（全2回） ドラマ「チャングムの誓い」や「JIN」の時代を、当時の医学書や公文書から紐解く。

会場／大阪大学中之島センター　申し込み・問い合わせ／朝日カルチャーセンター（中之島）☎06-6222-5224　http://www.asahi-culture.co.jp/index.html

●大阪・京都文化講座「大阪・京都の地宝と考古学」 立命館大学文学部、立命館大阪オフィスとの共催の講座です。

2	火	2:00PM～3:40PM	**「弥生・古墳時代における近畿地域の生産・流通構造の発展～朝鮮半島との比較を通じて」長友朋子（大阪大学大学院文学研究科招聘研究員/准教授）** 生産や流通構造がどう発展したのか、朝鮮半島との比較から考える。
16	火	2:00PM～3:40PM	**「日本海の弥生王墓と巨大前方後円墳～古代丹後発展のすがた～」福永伸哉（大阪大学大学院文学研究科教授）** 古代丹後発展の実態を「交易」と「先進技術」というキーワードで考える。
30	火	2:00PM～3:40PM	**「京・嵯峨野の古墳群」和田晴吾（立命館大学文学部教授）** 嵯峨野を散策しているつもりで主要な古墳を訪ね、その内容や古墳群の歴史的意義、他界観を紹介。

会場／立命館アカデメイア@大阪　受講料／各2,000円　申し込み・問い合わせ／立命館大阪オフィス☎06-6201-3610　http://www.ritsumei.jp/life-09/e09_10kyo_2.html

●大阪大学×大阪ガス アカデミクッキング 「専門分野の講義」&「料理実習」で"学問するココロ"が実践的に身につきます。

12/3	金	6:30PM～9:00PM	**「イタリア人はいつからトマトを食べ始めたのか?～オペラ、歴史的料理本に探る」山田高誌（大学院文学研究科助教）** 18～19世紀のイタリアの食の実態を歴史的料理本やオペラをめぐる史料などから浮き上がらせる。

会場／大阪ガスクッキングスクール千里　受講料／1,500円　申し込み・問い合わせ／大阪ガスクッキングスクール千里☎06-6871-8561　http://www.og-cookingschool.com/

●大阪大学21世紀懐徳堂シンポジウム―街育てvol.3 「街育て」をテーマに数人のパネリストが公開討論会を行います。

12/12	日	2:00PM～5:30PM	**「大阪万博40周年の検証」** 「人類の調和と進歩」というテーマで開催された大阪万博から40年。大阪の街は「進歩し、調和して」大きく育ったのか。

会場／毎日新聞社大阪本社「オーバルホール」　定員／350名　参加費／無料　問い合わせ／大阪大学21世紀懐徳堂☎06-6850-6443
※事前申込制（氏名・住所・電話番号をinfo@21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jpまで）

レクチャー&対話プログラム「ラボカフェ」

読書・哲学・鉄道など、毎月リアルタイムなテーマでカフェ風ワークショップを行っている、
京阪電車中之島線なにわ橋駅地下1階の［アートエリアB1］。11月のラインナップはこんな感じ。

9	火	6:30PM～8:30PM	**サイエンスカフェ／カフェ・オンザエッジ「生体ライブ映像の主役"蛍光プローブ分子"の開発者が追ってる事」** 定員:50名　3回シリーズの1回目。化学技術を駆使し蛍光プローブ開発最前線で活躍中の研究者を招く。
10	水	7:00PM～9:00PM	**中之島哲学コレージュ／哲学カフェ「わたしのいのちはわたしのもの?」** 定員:50名 人は果たして自分のいのちについて自分で決めることができるのか?参加者との対話をとおして考える。
16	火	6:30PM～8:30PM	**サイエンスカフェ／カフェ・オンザエッジ「細胞ライブカメラが追う、まだ誰も見ていない世界」** 定員:50名 シリーズ2回目。生きた破骨細胞撮影に世界初で成功し、細胞の動きから生体の謎を解いている研究者をゲストに迎える。
17	水	7:00PM～9:00PM	**スポーツカフェ・パシフィック「今なぜパ・リーグか?」** 定員:30名 プロ野球パ・リーグを中心に、スポーツについて自由に語り合う。「リーグを応援する」という意識はなぜ生まれるのか。
19	金	7:00PM～9:00PM	**シアターカフェ「一人芝居についてお話しましょう」** 定員:30名 一人芝居経験の豊富な演劇人や、これから一人芝居をやろうとしている俳優をゲストに招き、その魅力や可能性を紹介。
24	水	7:00PM～9:00PM	**鉄道カフェ「鉄カフェをみんなで考える19」** 定員:30名 幅広い層の参加者による素朴な疑問から派生した議論など、鉄道に関する様々な情報交換と対話が繰り広げられる。
26	金	7:00PM～9:00PM	**中之島哲学コレージュ／セミナー「生物多様性とビジネス」** 定員:50名 林業を中心とした事業づくり等の事例から、生命や生物多様性と経営・経済のかかわりについて、参加者と共に考える。

会場／アートエリアB1　参加費／すべて無料　開場／それぞれ開始30分前から　問い合わせ／［カフェの内容について］大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）☎06-6850-6632　［場所などについて］アートエリアB1 ☎06-6226-4006　※内容は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

中之島ふらふら青春記⑱ 久坂部 羊

ヨーロッパプチ放浪記〈中編〉

「コペンハーゲンに行ったら、クリスチャニアに行ってきたらいい」

ホームステイのホストが、私にそう勧めてくれた。クリスチャニアは、コペンハーゲンの一画にある「解放区」で、私みたいな若者がたくさんいるという。

ホストがコペンハーゲンに用事があるとき、私は車に同乗させてもらい、一人でクリスチャニアを訪ねた。そこは高い板塀で囲われた地域で、中央に広場があり、周囲にバラックのような建物が並んでいた。どことなく殺伐とした雰囲気で、壁にはサイケデリックな落書きがあり、スローガンのような文字も書き殴ってあった。道端にはゴミが散乱し、野良犬が我が物顔で歩き、軒下ではヒッピー風の若者が寒そうに肩をすぼめていた。

「クリスチャニアにいる若者は、自由を求めて集まっているんだ」

ホストはそう言っていたが、心は自由でも、生活は不自由という感じが強かった。

2階建てのバラックに「カフェ」の看板が出ていたので入ってみた。そこは被災者向けの食堂のようで、粗末なテーブルとベンチ椅子に、空席がないほど大勢の人が集まっていた。みんな長髪に髭面、衣服も浮浪者めいて、異様な雰囲気だ。黒板に書かれたメニューを見ると、すべて市価より3割がた安い。ホットドッグを買おうと列に並んだが、なぜか私には売ってくれなかった。

せめて写真だけでもと思い、「すみません。写真を撮ってもいいですか」とまわりの人に声をかけると、髭面にシルクハットをかぶった男が、拳を振り上げて「いやだ!」と叫んだ。私は怖くなって、そのまま逃げるようにクリスチャニアをあとにした。

それにしても、ホストはなぜ私にあんなところを勧めたのか。理由は日本に帰ってからわかった。旅行中に着ていたダウンパーカーの腕に、私はヤツデの葉っぱみたいな模様のワッペンを縫いつけていた。その下に「Leaglize pot」と書いてある。深い考えもなく、デザインだけで選んだものだが、英語の意味は「麻薬を合法化せよ」。葉っぱはマリファナだった。そんなワッペンを貼っていたので、ホストは私をヒッピー文化の共鳴者だと思ったようだ。不用意に横文字を使うと、思わぬ誤解を招くという教訓になった。

ホストファミリーには小学生の男の子が2人いて、私のよい遊び相手になっていた。犬の散歩に行ったり、海岸を探検したり、いっしょにジグゾーパズルをしたりした。

その話が学校に伝わったらしく、子どもたちの担任から、日本についての授業をしてほしいと頼まれた。

教室に行くと、女の先生が緊張した面持ちで待っていた。どうやら英語が苦手らしい。それで私もリラックスすることができた。

まず、黒板に自分の名前を、漢字とひらがなとカタカナで書いた。そんな文字を見たことのない子どもたちは、日本には3種類も文字があるのかと驚嘆の声を洩らした。次に私は日本の地図を描き、九州を指して、デンマークはこの島と同じくらいの大きさだと説明した。

「うわぁ。日本はなんて大きな国なんだ」

illustration: maki yoshimura

そんなリアクションが教室中に広まった。それまで日本は小さな国だと思っていた私は、なんだか急に大きな国からやってきたような気分になった。ついでに「110000000」と数字を並べ、これが日本の人口だと言った。子どもたちは信じられないとばかりに顔を見合わせ、私の浅はかな優越感はさらに高まった。

ほかにきちんと説明できることもなかったので、私は日本の遊びと称して、紙相撲の力士を作って見せた。ちょんまげにまわし姿は異国情緒たっぷりで、2人の力士を組み合わせて相撲を取らせると大いにウケた。さらに、脚を折り曲げ、指ではじいてジャンプさせるカエルも作り、授業の後半は工作の時間となった。工作なら言葉もいらないので気楽だった。時間が余った子どもには、日本の絵を描いてもらった。富士山やお城の絵が出るかと思いきや、描かれたのは傘をかぶった農民や、奇妙な五重塔のような建物で、私には中国かベトナムの風景にしか見えなかった。デンマークの子どもたちにすれば、日本ははるかな異国だったのだろう。

ホームステイも終わりに近づいたある日、ホストファミリーが午後から出かけることになり、私の相手は親戚のビビアンという女性がしてくれることになった。彼女は20歳そこそこの金髪美人で、体格もよかった。私はそんな女性と2人きりになることが気詰まりだったが、ビビアンはまるで気にしないようだった。

夕食は彼女が作ってくれることになり、料理を待つ間、私はダイニングキッチンで彼女と話をした。

「日本人でだれか有名な人物を知ってる?」と聞くと、ビビアンは即座に「知らない」と答えた。世界的に有名な日本人はいないのかと、少しがっかりした。世界的に有名なデンマーク人にはアンデルセンがいる。

その日、ビビアンは「ご飯を炊くから楽しみにしていて」と私に言った。だが、炊飯器はもちろん、釜のようなものもない。どうするのかと見ていると、鍋に湯を沸かしはじめた。

米はまず研いでから水につけて、と思っていると、驚いたことに、ビビアンは沸騰した湯に生米をざーっと放り込んだ。それでご飯が炊けるのかと危ぶんでいると、案の定、できたのは粥とも糊ともつかないドロドロのもので、とても食べられる代物ではなかった。彼女は、「失敗した」と言うや、止める間もなく鍋の中身をゴミ箱に捨ててしまった。米が主食の日本人として、私は胸が痛んだが、彼女はまるで平気のようす。日本の炊き方を教えようとしたが、「大丈夫。ここに書いてある」と、ビニール袋の説明を指さして、また鍋に湯を沸かしはじめた。

2度目はなんとかご飯らしいものができ、同時にいやに味の薄いカレーらしきものもできて、奇妙な夕食となった。私はビビアンと2人きりで落ち着かなかったが、色っぽい雰囲気にはまったくならなかった。半分ホッとするような、半分残念な夜だった。

ホームステイでは、ほかにドライブに連れて行ってもらったり、遺跡を見たり、絞りたての牛乳を飲ませてもらったりした。オーデンセのアンデルセンの生家を訪ねたり、オーフスという町に日帰り旅行もした。帰りにホスト宅方面のバス乗り場をさがしていると、「あなたの乗るバスはこれ」と若い女性が教えてくれた。「なぜわかるの」と聞くと、「この前、ビンテ（ホストファミリーの奥さん）と歩いているのを見たから」とのこと。2週間もいると、知らないうちにあちこちで見られているようだった。

最終日はホスト夫妻が早朝から留守だったので、感謝の置き手紙をしてフューン島を離れた。

当時の日記にはこうある。「Helloはそんなに感動的でないのに、Good byeはどうしてこんなに心を波だたせるのだろう」

くさかべよう　1955年生まれ。大阪大学医学部卒業。
麻酔医、外科医、在外公館での医務官としても勤務した後、2003年『廃用身』（幻冬舎文庫）でデビュー。
現代医療への提言と生きること・死ぬことについて考える
契機に満ちた作風が人気を呼び『破裂』は10万部を超えるヒットに。
「今月発売の『小説現代』の医療小説特集に、短編を書きました。
タイトルは『天罰あげる』心療内科医に取り憑く恐ろしい女性患者の話です」

取材・文／松本 創（本誌）

川べりのビルが緑で覆われ始めていた。

「大阪は水の都というわりに、川に背を向けて建つビルが多い。川に面した部屋に窓がなかったり、あっても物置き扱いだったり…」。本誌に何度か登場してもらった末村巧さんは語っていた。それじゃもったいないというわけで、末村さんたちは水辺のビルを専門に扱う「水辺不動産」を始めたわけだが、同じ視点から、「だったらビルの壁面を利用した景観をつくればいい」と考えた人がいた。大阪が生んだ世界的建築家、安藤忠雄氏である。

「水辺のビルの外壁をツタやカズラ、ツルバラなどで覆い尽くせば、世界でも例のない風景になる」というのが安藤氏の構想。土佐堀川で水上タクシーに乗っていた時、一棟のビルが青々とツタに覆われているのを見てアイデアを膨らませ、2年前からビルのオーナーたちに呼びかけを始めた。

土佐堀川に面したビルの足元にプランターを置き、伸びてきたツルをネットで誘導して外壁を這わせる。プランターやネットの設置、苗や植栽にかかる費用は市民の募金で賄う。「大阪の街は歴史的に市民の力で作られてきた」という考えからだ。やはり安藤氏が呼びかけ人となり、大阪都心部の水辺に3000本を植えた「桜の会・平成の通り抜け」と同じ構図である。

既に苗を植えたのは、大阪キャッスルホテル、廣田証券、ナカバヤシ本社、ルポンドシェル（旧・大林組本社）など、現在10数件。天満橋から北浜にかけてが多いが、西は常安橋の近くまで広がる。交渉中も数件。行政も協力する。河川の護岸、八軒家浜の壁面、東洋陶磁美術館などは、大阪府・市が緑化に乗り出している。

ある日、ビルの壁面に注目しながら川べりを歩いてみた。まだ壁を覆うほどではないが、元気にツルが伸び始めていた。「成長が早いですから、3、4年もすればずいぶん変わると思います」と、プロジェクトの担当者。安藤氏は、事務所に置いた募金箱に毎朝お金を入れるのが日課だという。

「大阪の水辺は市民が作った」と誇れる日は遠くないのかもしれない。

背景写真／安藤氏が船上から見て着想を得たという北浜「永和ビル」壁面の眺め。下／レトロビルにはツタがよく似合う。下段は別のビルの足元。ネットでツルを誘導している。

中之島壁面緑化「ツタ募金」

2008年9月に呼びかけを始め、09年3月から植栽をスタート。安藤氏が運営に関わる「瀬戸内オリーブ基金」を窓口に募金を集めているほか、講演会やイベントごとに募金箱を設置している。緑化に協力できるビルも募集中。問い合わせは、同基金事務局☎06・6371・2227

また来てしもたわ、あー中之島。

バッキー・イノウエ

其の十一 行きがかりじょう、俺はポンになった。

この『月刊島民』という本をどこかで手に入れた人が、俺に何かを投げかけてくることがよくある。

近所のうどん屋さんは「うちの母親が虫メガネであれ読みながら、『この人漬物屋さんやのになんで中之島にいかなあかんの』て言うてましたで。『飲みにやったらここらでええやろに』て言うて」と言いながら丼を持ってきてくれた。

新京極の食堂で働いているお姉さんには「京阪の東福寺のカーブのことが出てきて、なんか知らんけどうれしかったわ。私もあのカーブのときいつも外見てしまうねん。うちらまだ京阪が地下に入ってへん時分から丹波橋と四条を行き来してんねんで」と俺の肩を叩いた。

三条でバーをやっている人からはこんなメールが届いた。「京阪三羽ガラス（深草、藤森、墨染）には笑いました。たしかに、あれほど美しい響きの駅名が、三連発で続くのは、京都ならではでしょう」。

俺は京阪に縁のある人にとても親しみを感じてしまう。京阪に乗っていたり、駅のホームで待ってる時にはそんなことは全く感じない。でも街で会えば親しみを覚える。なんだかどんくさそうで流行じゃなさそうでうどんが好きそうでご飯つぶを残さない感じで一緒に旅行してもしんどくない感じ。

なんで俺はこんなに京阪のことを書くようになったのか。だいたいこの本が中之島のことを書きなさいというミッションを与えてくれたのだが、第1回目だけ中之島に行って、それ以降は京都から中之島へ行こうとするが、どうしてもたどり着けない地団駄及び京都イップス話になってしまっている。

しかしそのおかげで東福寺のたそがれカーブのことを思い出せたし、京都から中書島を越えることの困難さにも気付いた。各駅停車は遅いけど、どこの駅でも降りることができる自由があるということも知った。かっこいいな。そして迷うことでまた来る電車のありがたさを知り、乗り遅れて肩を落とした時には「改札口で君のことー」と歌ってしまう自分にあきれた。もう、我が心の京阪電車である。あー、というしかない。

ばっきー・いのうえ 京都・錦市場の漬物店［錦・高倉屋］店主にして日本初の酒場ライター。雑誌『Meets Regional』などで名フレーズを量産中。近著『京都 店 特撰』も発売中。

そんな行きがかりじょうにこそゴキゲンが現れるということを地団駄踏みながら泣いて書いた本ができました。百練画報、タイトルはなんと『行きがかりじょう、俺はポンになった』です。一冊ずつすべてに仕上がり日が書き込まれたオンリーワンブック。定価500円。しかし書店流通しない珍しい本です。

◎この本を抽選で5名の方にプレゼントします。バッキー・イノウエさんへのメッセージを添えて、ファックスかハガキでお申し込みください。宛先はP23にあり。

みなさまのおかげで、［ル・コントワール・ド・ブノワ］は3年目を迎えることができました。これからも気軽に足を運んでいただけるよう、よりいっそうの感謝の気持ちと共にお待ちしています。たとえばハイカウンターでグラスワインを1杯。そんな楽しみ方も大歓迎です。

サン・ブリ ソーヴィニヨン ¥750（白）
ヴォ・クリューズ グルナッシュ ¥600（赤）
※共に税込・サ別

●ボージョレーヌーボ解禁！
11月18日（木）、ボージョレー・ヌーボーの解禁に合わせて、フェアを開催します。ゴールデン・ボージョレー、ルイ・ジャドといった、日本ではなかなか飲めない珍しい銘柄をご用意しています。
※売り切れ次第終了とさせていただきます。

ル・コントワール・ド・ブノワ
大阪市北区梅田2-4-9
ブリーゼブリーゼ33F
☎06-6345-4388
http://www.comptoirbenoit-osaka.com/
ランチ11:00AM～2:30PM（L.O）
カフェ2:30PM～4:00PM（L.O）
ディナー5:00PM～9:30PM（L.O）
不定休

感謝の
気持ちと共に、
ブノワは
3年目を
迎えました。

LE COMPTOIR de BENOIT OSAKA

舞台芸術は光となって、橋で「ライブ」を奏でる。

錦橋の光の魅力は写真や言葉ではなかなか伝えられない。この橋が愛される理由を知るためには、わざわざ出向いてその場に身を置くことが必要だ。それは舞台芸術のようなライブを観に行くことと似ているかもしれない。

昭和6年（1931）にできた錦橋は、土佐堀川の流れや水位をコントロールする可動堰として作られた。しかし昭和50年代に入り可動堰の必要がなくなってもなお、錦橋は取り壊されずそのまま橋として残された。すぐ横に肥後橋があり、渡るためにどうしても必要だったとは考えにくいこの橋は、その頃には隣にあったフェスティバルホールと対をなす風景として愛されていたのだと想像する。

錦橋は2009年に本格的にライトアップされる前に、08年12月にプレイベントとして光がともされた。この時はフェスティバルホールが一時閉館した年で、ライトアップのコンセプトも「芸術をつなぐ橋」とされ、ホールの光を錦橋へ象徴的に受け継ぐことが目指されたという。

パーツごとに特徴的なデザインがなされている錦橋は、全体を漫然と照らすよりも個性にあわせて照明を変えた方が映える。メインのアーチ部分と橋桁は青いクールな光、その両脇にある橋脚部分は柔らかく淡い白色の光、そして可動堰だった時代の名残を伝える中央の階段室には、橋銘板を照らす光と階段室の窓から漏れる灯りが橋にアクセントを与える。

橋桁のアーチだけをシャープに照らせるように、青いライトには細かい配慮がされている。普通にあてると光が拡散して橋脚の白色の光に干渉してしまうのだが、部分的に遮光したカッターライトにすることで橋桁だけに光をあて、エッジの部分を際立たせている。現地に行かないと分からないことの一つなのだが、より青く写し出される写真に比べて、本当はもっと淡い光の表情をしている。

そして何より最大の特徴は両脇の橋脚を照らす光だ。注意深く光源を見ると分かるのだがライトは橋脚ではなく水面に向いていて、その反射光で橋脚を照らしている。だからゆらめく水面からの光が橋脚に映り、まるで映像のような動きを橋に与えている。二度と同じ模様をつくることのない波紋の光は現地に行かないとまさに感じることができない。

そんな光の風景は、まるで演劇やコンサートのようなライブを見ているようだ。フェスティバルホールの様々な舞台芸術は、こうした光の形で錦橋へ引き継がれているのではないか。そんな想像をすると楽しい。

今月のスポットライト!

堤防から張り出しているライトのうち、1基だけがこのように下を向いて川を照らしている。その光が川面に反射して橋にあたることで、橋脚はゆらゆらと揺れる「映像」を映すスクリーンになる。少し幻想的な雰囲気だ。

中之島へ光を見に行く。
vol.6

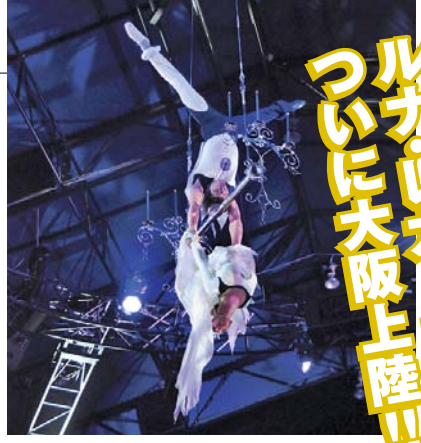
錦橋

取材・文／花村周寛
（ランドスケープデザイナー）
取材協力／大阪市建設局
大阪・光のまちづくり企画推進委員会
関西電力株式会社

トウミン月報

2010年11月1日発行

ルナ・レガーロ ついに大阪上陸!!



アクロバットなショーを楽しみながら有名シェフたちの料理を味わう、新しいエンターテインメント「ルナ・レガーロ」がついに中之島にやってくる。ショーを担当するのは、ロシアを拠点に活動する「グレート・モスクワ・サーカス」の選び抜かれた19名。5つのチームに分かれてそれぞれ美しく、超人的な技の数々を披露する。

そして料理はイタリアン「ラ・ベットラ・ダ・オチアイ」の落合務や、フレンチの鉄人「ラ・ロシェル」の坂井宏行、野菜を使ったデザートで人気の「パティスリーポタジエ」柿沢安耶など、一度はその名を聞いたことがある、メジャーな料理人12名が、それぞれ「月」をイメージしたオリジナルの1皿を担当。それぞれ3組に分かれて1カ月毎に料理を担当する。つまりは、11月・12月・1月で違う料理が楽しめるのだ。チケットはチケットぴあなど、各プレイガイドで発売中。シェフの顔ぶれやスケジュールなどはHPをチェックしよう。（田井麻希・本誌）

ルナ・レガーロ 大阪公演
期間／2010年11月9日（火）～2011年1月26日（水）　12:00PM～／5:30PM～／6:30PM～ 全112回公演　会場／大阪・中之島特設会場（京阪電車中之島線　中之島駅すぐ）　料金／平日16,000円　土・日・祝&1/3（月）18,000円（全席指定・税込・料理含・飲物別）　問い合わせ／ルナ・レガーロ大阪公演事務局
☎06-7732-8885（10:00AM～7:00PM）　http://ktv.jp/luna/

大阪を代表する名建築の見学会

ナカノシマ大学の会場としておなじみの大阪倶楽部が施設見学会を開催する。大阪倶楽部は大正元年創立の大阪で最も古い紳士の社交倶楽部。その施設は貸会場として一般利用はできるものの、基本的にはメンバーたちの社交場であるため、普段は公開されていない。大正13年に建築家の安井武雄により建設され、現在は登録有形文化財に指定されているこの建物は、外観はもちろん、天井の梁や持ち送りの装飾、照明やステンドグラスなど、内装も見どころが満載。

見学会の後、希望者は館内で昼食もいただけるので、大阪の空気を今に伝える建築物とともに午後のひとときを楽しんでほしい。（田井麻希・本誌）

大阪倶楽部公開見学会
日時／12月25日（土）11:00AM～12:00PM（見学会のみ）
参加費／無料（昼食希望者は3,000円。※事前申し込み必要）　定員／30名　応募締め切り／12月6日（月）
申し込み方法／jimukyoku@osaka-club.or.jpにメール、もしくは往復はがき、またはFAXにて。詳細は大阪倶楽部HPまたは☎06-6231-8361まで

旬のアート満載の情報センター

展覧会情報など、アートに関する情報を無料で提供する、アート・インフォメーションセンターがオープンした。国立国際美術館の南側、道路を挟んだすぐ向かい。中之島4-1-17番地にある、その名もズバリ、「中之島4117」だ。

こちらでは中之島界隈の美術館情報はもちろん、全国の主要な展覧会情報から、なかなかお目にかかれない画廊やギャラリーの情報まで網羅。特に11月は企画展が多く催される時期でもあり、展覧会めぐりの際にプランを立てるために立ち寄ると便利だ。

「中之島4117」では、アートの現場に関わってきた経験豊富な相談員が、自ら個展を開きたいといった芸術活動にまつわる相談も無料で行っている。「アートに関わる人たちを包括的に支援するサポートセンターとして、今後も多くの人に利用してもらいたい」とスタッフの渡邉智穂さんは話している。（玉井涼介・本誌）

中之島4117
☎06-6445-8577
11:00AM ～ 7:00PM（土・日・祝～ 5:00PM）　月・火曜休（祝日の場合開館、翌日休）　http://4117.jp/
※相談希望の場合、相談日は要事前確認

学びの秋のきっかけに

11月16日～18日の3日間、大阪市役所にて生涯学習講座が開かれる。1日目は、今年、7年間の宇宙の旅を経て、無事帰還した小惑星探査機「はやぶさ」がテーマ。いったいどんなプロジェクトだったのか。これをきっかけに、今後どんな研究がされていくのかを、大阪市立科学館の学芸員が解説する。

2日目は、特集にもご登場の橋爪節也氏が、幕末の錦絵や近現代絵画を通して中之島の魅力を紹介。最終日は中央公会堂など、中之島に残る近代建築から見る大阪の歴史と文化の講座。学びのキッカケづくりをお好みの講座からどうぞ。（田井麻希・本誌）

大阪市生涯学習情報発信ウィーク
●「おかえりなさい！“はやぶさ”～小惑星探査機“はやぶさ”7年間の旅の軌跡～」
日時／11月16日（火）　2:00PM～3:00PM
講師／飯山青海（大阪市立科学館・学芸員）
●「描かれた中之島～幕末の錦絵から近現代絵画まで～」
日時／11月17日（水）　10:00AM～11:30AM
講師／橋爪節也（大阪大学総合学術博物館教授）
●「中之島かいわいに残る近代建築」
日時／11月18日（木）　2:00PM～3:30PM
講師／植木久（大阪市教育委員会事務局文化財保護担当研究主幹）

場所／大阪市役所玄関ホール
参加費／無料　定員／各回50名
申し込み方法／http://www.manabi.city.osaka.jp/contents/III/kouza/kouza.aspから。
または往復はがき、FAXでも可能。
詳細は教育委員会事務局生涯学習担当まで。
☎06-6208-9146

KOURIEN DESIGN

住みよい街の「かたち」を考える

香里園デザイン

取材・文／大迫力（本誌）
写真／浜田 智則

02 パシモンカフェのカウンターからの眺め

パシモン カフェ&ブティック　●寝屋川市成田町29-30　☎072-833-1718　9:30AM～6:00PM　水曜休

大きな柿の木が、街に季節を運んでくれる。

香里園の街を歩いていると、何気ない所にも緑が多くあることに気がつく。並木道があったり、樹齢を想像せずにはいられない大木があったり。街のすき間を埋めるように小さな公園もちらほらと見られ、道行く人を和ませてくれる。お寺や神社の境内の緑も目に入ってくる。

成田山不動尊の近くにあるこの「パシモンカフェ」の庭にもたくさんの植物が植わっている。中でも店の名前の由来になっている柿の木は（「パシモン」はフランス語で柿の意味）、近所のちょっとした名物だ。毎年、橙色の大きな実をつけて、秋が深まってきたことを教えてくれる。「食べられるようになったら、ケーキに使ったり、余った分はジャムにしたり。毎年楽しみにしてくれる人もいるのよ」と店主の須磨真由美さん。同じように庭にあるモミの木は、冬になるとクリスマスツリーになるそうだ。

須磨さんがこの場所にカフェを開いたのは21年前のこと。もともとは、それより30年ほど前に大阪市内から移り住んだ祖母の家の庭だったそうだ。枝ぶりの見事な柿の木も、その当時からのものだという。祖母の時代から大切に育てられてきた花は、店のテーブルやカウンターにも飾られている。

ケーキは手作り。この日は季節に合わせて栗のケーキだった（400円）。コーヒーとのセットは800円。

四方黒池を囲む遊歩道からの眺め。ちょうど正面にカフェが見える。白い建物がよく目立っている。

これが柿の木。食べられるようになるのが待ち遠しい。きれいに剪定されていることが見てわかる。

カウンターに座ると、一面がガラス張りになっていて、カップの置かれた作りつけの棚越しに外の景色がよく見える。店のすぐ目の前には四方黒池（よもぐろいけ）と呼ばれる小さなため池があり、その周りは整備されて公園になっている。それほど大きいわけではないけれど、やはり水と緑のある風景を見ると、ついほっとして長居してしまいそうになる。

緑や水のある街では、人はほっとする。

その四方黒池の周りに造られた小さな公園には、小さな滑り台などの遊具に混じって、池の歴史について書かれた石碑がある。昭和61年（1986）に寝屋川市によって親水公園として整備されたが、戦前までは近隣の田畑に水を引くための農業用のため池として使われていた。昭和9年（1934）に、交通安全のお守りで有名な成田山新勝寺の大阪別院が建てられた頃から、その参道に沿って人が住み始め、住民たちが魚釣りや水遊びをしていたらしい。石碑にはその頃の様子がなんとも楽しげに記されている。「池の東側には山から清水が流れこみ、夏になるとホタルが乱舞し、笹を持ってホタルを追いかける里人のすがたが昭和の初期までみられました」。

楽しみ方は変わったけれど、水や緑に親しめる街であることはそのままだ。

my favorite KOURIEN-DESIGN

香里園在住
鏡畑智史さん・麻子さん

住むなら絶対に駅近く！と決めていました。でも、山が見渡せない場所はイヤだったんです。

1年ほど前に香里園駅のすぐ西側にあるマンションに引っ越してきた鏡畑さんご夫婦。智史さんは樟葉、麻子さんは星ケ丘のご出身という京阪沿線カップルだ。「今まで住んでいたのが駅から遠かったので（笑）、新しく住むところは絶対駅から近いところが良かった」（麻子さん）という二人にとって、マンションや商業施設、病院など駅前開発が進んでいた香里園はちょうど良かった。

住んでからの印象は、とにかく便利ということ。「買い物には困らない。スーパーもたくさんあるし、ポイントが多く付く日を調べてしっかり使い分けてます。ご飯を食べるところもたくさんあるし」と麻子さん。

あらためて気づいたこともある。身近なところに自然が豊富にあるということだ。「マンションからは、東も西も、どちらにも山が見えるんです。少し歩けば淀川沿いの河川公園にもすぐに行けますし」（智史さん）。快適に暮らせる便利さと、ほっとさせてくれる自然、両方を楽しめる生活を実感している。

こころまち つくろう
KEIHAN
京阪電鉄

シリーズ第2回
京阪の街づくり

当世風薔薇色生活
京阪沿線理想的住宅地

香里園からはじまり 枚方市へ、そして樟葉へ。

1947（昭和22）年、香里園で売り出した住宅はまたたく間に完売。昭和30年代に入ると、「テレビ付き住宅」や「バラ園付き住宅」など意表をついた商品をつぎつぎと販売。その後、枚方と八幡にまたがる約5500戸の「くずはローズタウン」の分譲を皮切りに、大いなるパイオニア精神のもと大規模な宅地開発を展開してきました。

ところで「くずはローズタウン」をはじめ「びわ湖ローズタウン」「京阪東ローズタウン」など、京阪が手がけた宅地や物件の多くに「ローズ」の名がついています。これは、先のバラ園付き住宅同様、枚方公園のバラ園にちなんだものですが、憧れのマイホームでバラ色の生活をという願いが込められているとかいないとか。また先頃、京阪電車開業100周年を記念して、フランスのバラ育種の名門「ゴジャール家」から寄贈されたバラを"悠久の約束"と命名。その名前には、100年前の開業時からお客様に約束してきた「安全・安心・信頼の商品・品質・サービス」を提供するという京阪グループの想いが込められているのです。

昔も今も変わらず、理想の暮らしを提案する京阪の街づくり。つぎの100年に向けて、これからも沿線を中心に理想的住宅地を提案していきます。

「悠久の約束」

ローズヴィレッジくずはⅡ
■所在地／大阪府枚方市
■開発面積／約17,831.89㎡
■計画戸数／93戸
◆最寄駅／京阪電車「樟葉」駅

ザ・香里園タワー
■所在地／大阪府寝屋川市
■敷地面積／約6,566.59㎡
■総戸数／331戸
◆最寄駅／京阪電車「香里園」駅

京阪東御蔵山住宅地
■所在地／京都府宇治市
■開発面積／約25万㎡（京阪東御蔵山全体計画面積）
■計画戸数／約800戸（京阪東御蔵山全体計画戸数）
◆最寄駅／京阪電車「六地蔵」駅

京阪東ローズタウン
■所在地／京都府京田辺市・八幡市
■開発面積／約161万㎡
（京阪東ローズタウン全体計画面積）
■計画戸数／約4,500戸
（京阪東ローズタウン全体計画戸数）
◆最寄駅／JR学研都市線「松井山手」駅・京阪電車「樟葉」駅

ローズプレイス京阪宇治
■所在地／京都府宇治市
■開発面積／約8,725.73㎡
■計画戸数／35戸
◆最寄駅／京阪電車「宇治」駅

※中之島への所要時間
昼間時間帯の標準的な所要時分です。
乗り換え時間も含みます。運転状況や時間帯により、異なる場合があります。

京阪グループが提供する住まいの情報
http://www.keihan-kiss.co.jp

大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、みんな「島民」です！

『月刊島民』はここでもらえます。

京阪電車関連：京阪電車主要駅／京阪シティモール／京阪モール／デリスタ天満橋店／ホテル京阪天満橋／ホテル京阪京橋

書店：ブックファースト梅田店／旭屋書店 本店／旭屋書店 梅田地下街店／旭屋書店 堂島地下街店／ジュンク堂書店 大阪本店／ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店／ブックファースト 淀屋橋店／文教堂書店淀屋橋店／天牛堺書店 大江橋店／紀伊國屋書店 本町店／ジュンク堂書店天満橋店／紀伊國屋書店 京橋店／隆祥館書店／なんば書店カルチャーコーナー

公共施設・大学関連施設ほか：大阪市中央公会堂／府立中之島図書館／大阪市役所市民情報プラザ／大阪市立中央図書館／大阪歴史博物館／大阪城天守閣／大阪狭山市立図書館／奈良県立図書情報館／大阪国際会議場／市立住まい情報センター／大阪商工会議所／大阪市社会福祉研修・情報センター／大阪企業家ミュージアム／味の素 食のライブラリー／朝日カルチャーセンター／大阪大学中之島センター／大阪大学本部／大阪大学21世紀懐徳堂／摂南大学地域連携センター／慶應大阪リバーサイドキャンパス／追手門学院 大阪城スクエア／追手門学院 大手前センター／関西学院大学大阪梅田キャンパス／専門学校中の島美術学院／大阪工業技術専門学校／ろうきんギャラリー心斎橋／大阪倶楽部／中央電気倶楽部／芝川ビル／ホテルNCB／ABC朝日放送／大阪フィルハーモニー会館

店舗・医院など：江戸前鰻料理 志津可／ラ・クッカーニャ／アリアラスカ マーブルトレ／MANGUEIRA／Girond's JR／じろう亭／ミニジロー／黒門さかえ／花かつ／ティーハウスムジカ／MJB珈琲／平岡珈琲店／喫茶SAWA／アンドール本町本店／あじさい／Calo Bookshop and café／EXPO CAFE／喫茶カンターロ／BAR THE TIME 天神／タバーン・シンプソン／パストラーレ／LES LESTON／大西洋服店／上町貸自転車／ザ・メロディ／カセッタ／セブンイレブン大阪証券取引所店／吉田理容所／たまがわ鍼灸整骨院／宮崎歯科／心斎橋山田兄弟歯科／東郷歯科医院／ネイルサロンスワンナ

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円（手数料）でお譲りしております。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。郵便振替（口座番号：00990-5-299267）または現金書留にて下記の宛先にお送りください。［料金］4ヶ月／800円（2011年3月号まで）

次号予告 中之島へ光を見に行こう。

冬の恒例のイベントとなった光のルネサンス2010や橋のライトアップなど、中之島を輝かせる「光」の話題とその鑑賞法をお送りしよう。

●『月刊島民』vol.29は2010年12月1日発行です！

編集・発行人／江 弘毅（編集集団140B）
編集・発行／月刊島民プレス
若狭健作　綱本武雄（株式会社 地域環境計画研究所）
松本 創　大迫 力（編集集団140B）
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340　Fax 06-4799-1341
制作進行／堀西 賢（ALEGRESOL）
デザイン／山﨑慎太郎
表紙イラスト／奈路道程
印刷／佐川印刷株式会社